

## ▲つくば市の景観的特徴

つくば市は、関東の名峰筑波山を有し、また、市域の大部分は関東平野の一角を形成する、緩やかな高低差を持った広々とした台地が広がっています。そこには、この地域が持つ歴史気候風土の中で長い年月をかけて形づくられてきた集落や里山の景観が、現在でも比較的多くみられます。

一方で、つくば市は、国家プロジェクトで計画された筑波研究学園都市という新しいまちでもあり、広幅員の大通りや歩行者専用道路が縦横に配置され、広大な面積をもつ大学や研究施設とあわせて、非常にダイナミックな都市景観を有しています。

また、最近ではつくばエクスプレスの開業により、茨城県南の拠点都市として、多様な商業・業務施設の集積が進み、都心地区には高層住宅が建ち並ぶなど、現在もまちが成長しつつある様子を見ることができます。

このようにつくば市は、随所に美しい里山風景が広がっており、また、一方で近代都市的な面もあり、景観的にもその両面性をあわせもっているのが特徴です。

## ▲つくばの景観 100 を作成したねらい

つくば市ならではの特徴ある優れた景観を大切にし、生かしていくことは、魅力的なまちづくりにとって欠かせない要素となります。そのためには、まず私たち市民が、つくばの優れた景観を知り、大切にしようとする気持ちを共有することが重要です。

つくば市域は面積が広く、自分が住む地域以外のエリアの様子を知る機会はありません。

そこで、市民の皆さんをはじめ多くの人々に、つくばの良さを知っていただき、このまちを再認識していただきたいと思い、紹介することにしました。

今後も、つくばエクスプレス開業やその沿線開発などによって、つくば市が大きく変貌していくことが予想されます。今、つくば市の大切な財産である優れた景観を再発見し、これらを保全していく取り組みの重要性を感じています。

## ▲ つくばの景観 100 選定の基準

「つくばの景観 100」を選ぶ基準は、次の①～③のいずれかに該当する景観としました。

- ① つくば市が誇るべき、または、つくば市を代表すると思う優れた景観であること
- ② つくば市の財産として後世に残したい景観であること
- ③ つくば市ならではの、または、つくば市らしいと感じる好ましい景観であること

## ▲ この写真集の見方

「つくばの景観 100」は、「景観写真」を見て楽しんでいただくのはもちろんですが、実際に訪ね歩きがしやすいよう「景観マップ」にポイントを落としました。

また、景観の種類ごとにカテゴリを9分類しました。

〔カテゴリ〕

- ① 集落
- ② 建物
- ③ 街並み
- ④ 山
- ⑤ 道
- ⑥ 田園
- ⑦ 緑・公園
- ⑧ 水辺
- ⑨ 祭り

## ▲ 訪ね歩く際の注意

◇景観の対象の多くは、私有地が含まれています。他人の敷地内や田畑などに無断で立ち入ることはご遠慮ください。

◇路上などに車をむやみに駐車しないでください。

◇その他、他の人の迷惑になる行動は慎んでください。

◇景観はいろいろな要因で日々移り変わっていきます。ここに紹介した景観もすでに変貌している場合があります。

## ▲優れた景観を守り育てるための方法

優れた景観を守り、改善していくにはどうすればいいでしょうか。

優れた景観は、一朝一夕に装飾したり取り繕ったりすることでできるものではありません。多くの人たちが景観の大切さを認識し、きちんとしたルールを作り、市民、事業者、行政など、いろいろな人が力を合わせて粘り強く行動していくことで、はじめて実現できるものです。

このように、豊かな景観を創造していく取り組みは、大勢の協働作業で取り組むテーマであり、努力すればそれだけ成果が表われることから、まちづくりにとって大変意義のあることと言えます。

## ▲おわりに

おそらく、ここに選ばれた場所以外にも、「もっといいところがあるのに」と感じる人はたくさんいらっしゃると思います。

一人一人が思う「つくばの景観 100」があるはずであり、また、新たな景観を発見することで、この「つくばの景観 100」も進化していくのではないかと思います。みなさんがお勧めの場所、自慢したい景観があれば、ぜひ教えてください。

2004年に、国は「景観法」という新しい法律を制定しました。つくば市もこの法律に基づき、2005年8月24日に景観行政団体になり、景観を守る取り組みを始めています。私たち一人一人ができることから取り組んでいきましょう！

2006年4月

都市マス市民ワークショップ景観班  
都市整備課